

研修カリキュラム・シラバス(介護職員初任者研修)

| 科目 | 細目 | 時間数(1時間は50分とする) | | | | | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 |
|--------------------|---------------------------|--|----|----|----|----|---|
| | | 計 | 講義 | | 演習 | 実習 | |
| | | | 通信 | 通学 | | | |
| 1 職務の理解 | | (指導目標) これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持っていただく。 | | | | | |
| | (1) 多様なサービスの理解 | 4 | | 4 | | 0 | 介護保険導入の背景と制度の基本及び介護保険サービス、介護保険外サービスについて解説する。 |
| | (2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 4 | | 4 | | 0 | 居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス等働く現場の仕事内容及びサービス提供に至るまでの一連の業務の流れ、チームアプローチ、他職種及び地域の社会資源との連携について解説する。 |
| 2 介護における尊厳の保持・自立支援 | | (指導目標) 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例等を理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 人権と尊厳を支える介護 | 6 | 0 | 6 | | | ノーマライゼーションの考え方、QOL及び介護分野におけるICFについて解説する。また高齢者の虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護について解説する。 |
| | (2) 自立に向けた介護 | 5 | 0 | 5 | | | 自立(自律)の意味、自立支援の多様性、個別ケアについて説明し、利用者の意欲を高める支援方法について解説する。 |
| 3 介護の基本 | | (指導目標) 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、介護を必要としている人の個別性及び職務におけるリスクとその対応策を理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 2 | 0 | 2 | | | 施設と居宅という介護環境の特性を解説し、多職種連携のあり方、地域包括ケアの役割、専門職としての役割、多職種連携における介護職の役割を解説する。 |
| | (2) 介護職の職業倫理 | 2 | 0 | 2 | | | 介護の仕事は知識・技術だけではなく高い倫理性が必要であることを説明し、利用者・家族に対するかかわり方、利用者・家族にかかわる際の留意点について解説する。 |
| | (3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2 | 0 | 2 | | | 予防重視のリスクマネジメントの考え方、リスク分析の方法や視点、情報共有の大切さを解説する。また感染対策の為の感染経路やスタンダード・プリコーションについて解説する。 |
| | (4) 介護職の安全 | 2 | 0 | 2 | | | 介護の質に影響する介護職員の健康管理及びストレスマネジメント及び、介護職員の労働者としての権利と制度について解説する。 |

| 科目 | 細目 | 時間数(1時間は50分とする) | | | | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 | |
|----|-------------------------|--|----|----|----|---|----|
| | | 計 | 講義 | | 演習 | | 実習 |
| | | | 通信 | 通学 | | | |
| 4 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | (指導目標) 介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 介護保険制度 | 3 | 0 | 3 | | 介護の社会化の必要性、予防重視型システムへの転換、地域包括ケアシステム推進等について説明し、保険制度の基本的な仕組み、介護給付、予防給付の種類、財源等について解説する。 | |
| | (2) 医療との連携とリハビリテーション | 5 | 0 | 5 | | 介護職が実施できない医行為、医療・看護の役割及び連携について解説する。またリハビリテーションの理念、目的、地域リハビリテーションについて解説する。 | |
| | (3) 障害福祉制度およびその他制度 | 3 | 0 | 3 | | 障害者福祉制度の変遷を説明し、障害者福祉制度の理念、障害者自立支援法の目的及び概要について解説する。また個人情報保護法、成年後見制度についても解説をおこなう。 | |
| 5 | 介護におけるコミュニケーション技術 | (指導目標) 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識していただく。また初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 介護におけるコミュニケーション | 4 | 0 | 4 | | 介護サービスにおけるコミュニケーションの目的と意義、役割及び円滑なコミュニケーションのための共感と利用者理解、自己覚知、言葉使いについて解説する。また言語、視覚、聴覚障害者、失語症、認知症の人とのコミュニケーションの方法と留意点について解説する。 | |
| | (2) 介護におけるチームのコミュニケーション | 4 | 0 | 4 | | チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性、チームアプローチの効果と意義及びコミュニケーションを促す環境について解説する。また記録の重要性、その意義と目的、ケアカンファレンスの重要性について解説する。 | |
| 6 | 老化の理解 | (指導目標) 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性を理解していただく。また自らが継続的に学習するべき事項を理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 4 | 0 | 4 | | 加齢に伴う五感の変化が日常生活に与える影響について説明し、ケアを行っていくうえでの注意事項を解説する。またからだにおこる加齢変化について解説する。 | |
| | (2) 高齢者と健康 | 4 | 0 | 4 | | 高齢者の身体的・精神的機能の変化と病気との関連、日常生活への影響について解説する。また老化に伴う身体の変化、高齢者に多い疾患について解説する。 | |
| 7 | 認知症の理解 | (指導目標) 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 認知症を取り巻く状況 | 1 | 0 | 1 | | 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方を説明し、「できること」に着目したケア、その人らしさを活かすケアの形としてパーソン・センタード・ケアの考え方を解説する。 | |

| 科目 | 細目 | 時間数(1時間は50分とする) | | | | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 | |
|----|---|--|----|----|----|--|----|
| | | 計 | 講義 | | 演習 | | 実習 |
| | | | 通信 | 通学 | | | |
| | (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 3 | 0 | 3 | | 認知症の定義、診断基準など、認知症についての基礎知識を説明し、加齢に伴う物忘れと認知症の違いを解説する。また認知症の種類と原因について説明し、また中核症状と行動・心理症状(BPSD)の違いについて解説し理解を深める。 | |
| | (3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 | 2 | 0 | 2 | | 行動・心理症状が誘発される介護職の不適切なケアを説明し、適切なケアとはなにかを解説する。また認知症の人の言葉や表現、しぐさから中核症状の及ぼす影響及び生活支援の具体的な対応方法を解説する。 | |
| | (4) 家族への支援 | 2 | 0 | 2 | | 認知症高齢者を介護する家族介護者の負担感やその要因を説明し、家族の世話と専門家のケアとの違いを解説する。また家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて解説する。 | |
| 8 | 障害の理解 | (指導目標) 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解していただく。 | | | | | |
| | (1) 障害の基礎的理解 | 1 | 0 | 1 | | 障害の概念とICFの考え方、障害の需要のプロセス、介護職の役割を解説する。またノーマライゼーションの理念、リハビリテーションの概念、インクルージョンの理念を解説することで、より理解を深める。 | |
| | (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識 | 2 | 0 | 2 | | 身体障害、知的障害、精神障害、言語・聴覚障害、視覚障害、発達障害、高次脳機能障害、内部障害、難病等が日常生活にどのような影響を与えるのかを解説する。 | |
| | (3) 家族の心理、かかり支援の理解 | 1 | 0 | 1 | | 家族の心理の一般的過程、家族の負担とその要因、家族支援の概要を説明し、介護負担とその要因、必要性を理解した家族支援とQOLの向上との関係を解説する。 | |
| 9 | こころとからだのしくみと生活支援技術 | (指導目標) 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護を実施できるようになっていただく。また尊厳を保持し、その人の持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得していただく。 | | | | | |
| | I 基本知識の学習 | (10～13時間程度) | | | | | |
| | (1) 介護の基本的な考え方 | 3 | 0 | 3 | | 利用者一人ひとりに適切な介護を行うための基本的な考えを理解し、根拠に基づく介護の大切さを解説する。 | |
| | (2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 3 | 0 | 3 | | 加齢に伴って生じてくる心の変化について、日常生活への影響と高齢者の心理を解説する。また高齢期に生じやすい心理・社会的環境の変化について説明し、それに応じた高齢期のパーソナリティの変化や適応のしかたについて解説する。 | |
| | (3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 6 | 0 | 6 | | 介護の専門職として必要な身体各部の名称、人体の骨格・関節・筋のはたらきを解説する。また基本動作における実際的な動きを説明し、ボディメカニクスの介護への活用を解説する。 | |

| 科目 | 細目 | 時間数(1時間は50分とする) | | | | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 | |
|-----------------|--------------------------------------|-----------------|----|----|----|--|----|
| | | 計 | 講義 | | 演習 | | 実習 |
| | | | 通信 | 通学 | | | |
| II 生活支援技術の講義・演習 | | | | | | (50～55時間程度) | |
| | (4) 生活と家事 | 4 | 0 | 2 | 2 | 生活における家事支援の必要性を説明し、利用者が望む衣食住の生活支援について解説する。また家事支援は、利用者の自立とQOLの向上に向けた援助であり、私的な手伝いではなく、制度に基づく自立支援であることを解説し、演習を通して実際の家事支援のポイントを説明する。 | |
| | (5) 快適な居住環境整備と介護 | 5 | 0 | 3 | 2 | 住居のあり方とおして、個人のプライバシーや地域との交流を説明し、障害者や高齢者にとって快適な住居整備について解説する。また実際の福祉用具を使用し、福祉用具の基礎知識と利用方法を解説する。 | |
| | (6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 10 | 0 | 4 | 6 | 日常生活のなかでの整容の意味、身体の清潔を維持することの意味を解説する。また演習の中で、清潔維持の方法や口腔の清潔保持の方法及び口腔体操について解説し、合わせて介護技術担当講師が介護技術習得状況を評価する。 | |
| | (7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 10 | 0 | 4 | 6 | 体位と姿勢の持つ意味、体位と姿勢に関して介護が目指すことを説明し、自立するための観察と介護方法について解説する。また実際の介護現場を想定し、安全で安楽な移乗方法を補助具等も使用しながら解説し、階段やスロープ等実際の現場にて移動介助も解説する。合わせて介護技術担当講師が介護技術習得状況を評価する。 | |
| | (8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 10 | 0 | 4 | 6 | 人にとって食事のもつ意味を説明し、食べ物の咀嚼、嚥下の仕組みについて解説する。また実際の食事介助を演習にて行なうことで、食事の自助具の特徴と誤嚥させない介護のポイントを解説する。合わせて介護技術担当講師が介護技術習得状況を評価する。 | |
| | (9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 10 | 0 | 4 | 6 | 入浴のもつ意味や個別性、および皮膚の生理的機能や皮膚の汚れについて説明し、清潔行動の仕組みと清潔保持のための安全な援助方法を解説する。また実際の浴槽を利用し、入浴介護のポイントや手順、特殊な用具や浴槽の特徴について解説する。合わせて介護技術担当講師が介護技術習得状況を評価する。 | |
| | (10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 9 | 0 | 3 | 6 | 人にとって排泄のもつ意味、排泄の仕組み、排泄介護の原則を解説する。また実際の排泄用具を使用し、特徴や介護のポイントを説明し、排泄行動が自立できるための観察と介護方法を解説する。合わせて介護技術担当講師が介護技術習得状況を評価する。 | |
| | (11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 4 | 0 | 2 | 2 | 睡眠の意味と睡眠のリズムや種類、生理的変化をおしてその仕組みを説明し、高齢者の睡眠の特徴を解説する。また環境整備として温度や湿度、光、音、寝具の整え方等を、演習にて実際の特徴寝台、付属品等利用しながら解説する。合わせて介護技術担当講師が介護技術習得状況を評価する。 | |
| | (12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 4 | 0 | 2 | 2 | さまざまな終末期の形があることを説明し、終末期における緩和ケア、家族ケアについて解説する。また終末期における介護職員の基本的態度を演習を通して理解していただく。 | |
| III 生活支援技術演習 | | | | | | (10～12時間程度) | |
| | (13) 介護過程の基礎的理解 | 5 | | | 5 | 介護課程の目的と意義、展開について説明し、チームアプローチの重要性を解説する。また事例をもとに普段の体調管理の重要性及び利用者の人生歴を知る必要性、利用者を孤独にさせない工夫等を解説する。 | |

| 科目 | 細目 | 時間数(1時間は50分とする) | | | | 講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 | |
|----|----------------------------|--|----|----|----|-------------------------|--|
| | | 計 | 講義 | | 演習 | | 実習 |
| | | | 通信 | 通学 | | | |
| | (14) 総合生活支援技術演習 | 7 | | | 7 | | 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れと必要な介護技術、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について、グループ単位の演習を行う中で解説する。また合わせて演習時に担当講師による実技評価試験を実施する。 |
| 10 | 振り返り | (指導目標) 研修全体を振り返り、初任者研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢を持っていただく。また更なる学習を通じ今後のキャリア形成のための目標を各自持っていただく。 | | | | | |
| | (1) 振り返り | 3 | | | 3 | | 研修全体を振り返り、初任者研修をを通じて学んだことを自己評価を行うことで、各自、知識、技術の習得度に不足が無いか確認する。習得度に不足がある場合は各自、各科目に戻って再学習することを徹底させる。 |
| | (2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 | 2 | | | 2 | | 介護人材の資格制度がどのような方向に改正されようとしているのか説明し、国が推進している介護技術の評価制度の動向等も解説する。 |